



# NEDO事業紹介と産総研との連携について

2018年11月20日

イノベーション推進部  
スタートアップグループ 統括主幹  
吉田 剛

# NEDOについて



国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

New Energy and Industrial Technology Development Organization

エネルギー・  
地球環境問題の解決

産業技術力の強化

日本最大級の公的研究開発  
マネジメント機関

- 経済産業省所管
- 職員数926名

(2018年4月1日現在)

- 平成30年度予算  
約1,596億円



所在地：川崎市幸区大宮町1310  
ミュージアム川崎セントラルタワー内

# シーズ発掘から事業化までシームレスに 支援を行うNEDOのプラットフォーム



## 研究開発成果の実用化・事業化支援事業

中堅・中小企業

大学等

⇒新技術を具体的に以下の特定新分野の研究開発に生かしたい方

- ④ ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業
- ⑤ 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
- ⑥ 課題解決型福祉用具実用化開発支援事業
- ⑦ 中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業
- ⑧ ベンチャー企業等による宇宙用部品・コンポーネント開発助成
- ⑨ AIシステム共同開発支援事業
- ⑩ AIチップ開発加速のためのイノベーション推進事業
- ⑪ 国際研究開発／コファンド事業

事業化

## 次世代プロジェクトシーズ発掘事業

⇒革新的な新技術シーズをお持ちの方

NEDO先導研究プログラム/

- ① 新技術先導研究プログラム
- ② 未踏チャレンジ2050

大学等

中堅・中小企業

## 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業

⇒Tech系ベンチャーの起業をご検討の方

- ③ 研究開発型ベンチャー支援事業
  - ③-1 NEDO Technology Commercialization Program (TCP)
  - ③-2 NEDO Entrepreneurs Program (NEP)
  - ③-3 シード期の研究開発型ベンチャー (STS) への事業化支援
  - ③-4 企業間連携スタートアップ (SCA) に対する事業化支援
  - ③-5 高度専門産業支援人材育成プログラム (SSA)

ベンチャー

大学等

## マッチング支援事業

⇒ビジネスへのマッチングを促進

- マッチングスペース
- 金融マッチング
- S-Matching
- ビジネスマッチング

ベンチャー

中堅・中小企業

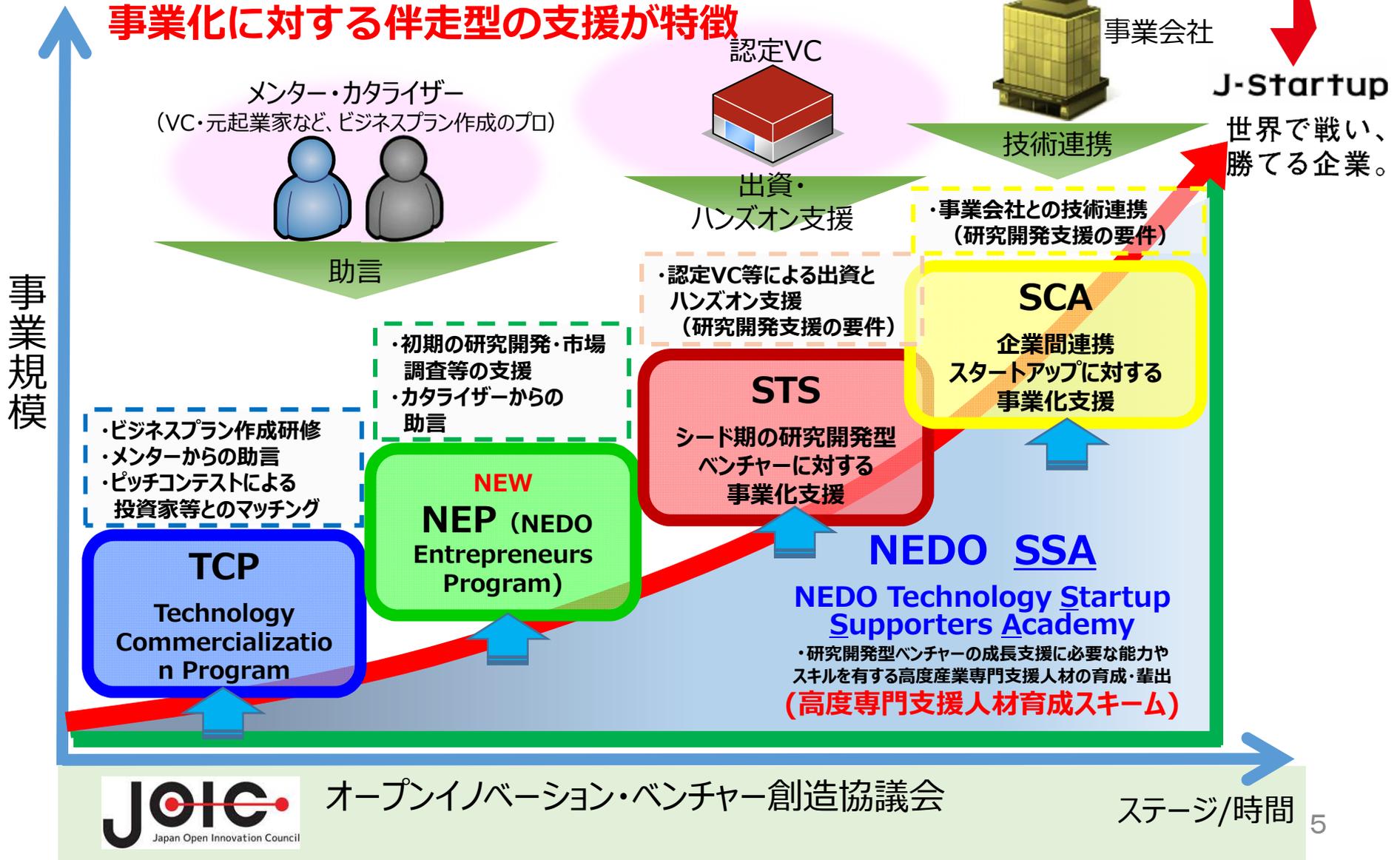
死の谷



# 研究開発型ベンチャー支援事業の全体像



**NEDO所掌範囲全般が対象**  
**事業化に対する伴走型の支援が特徴**





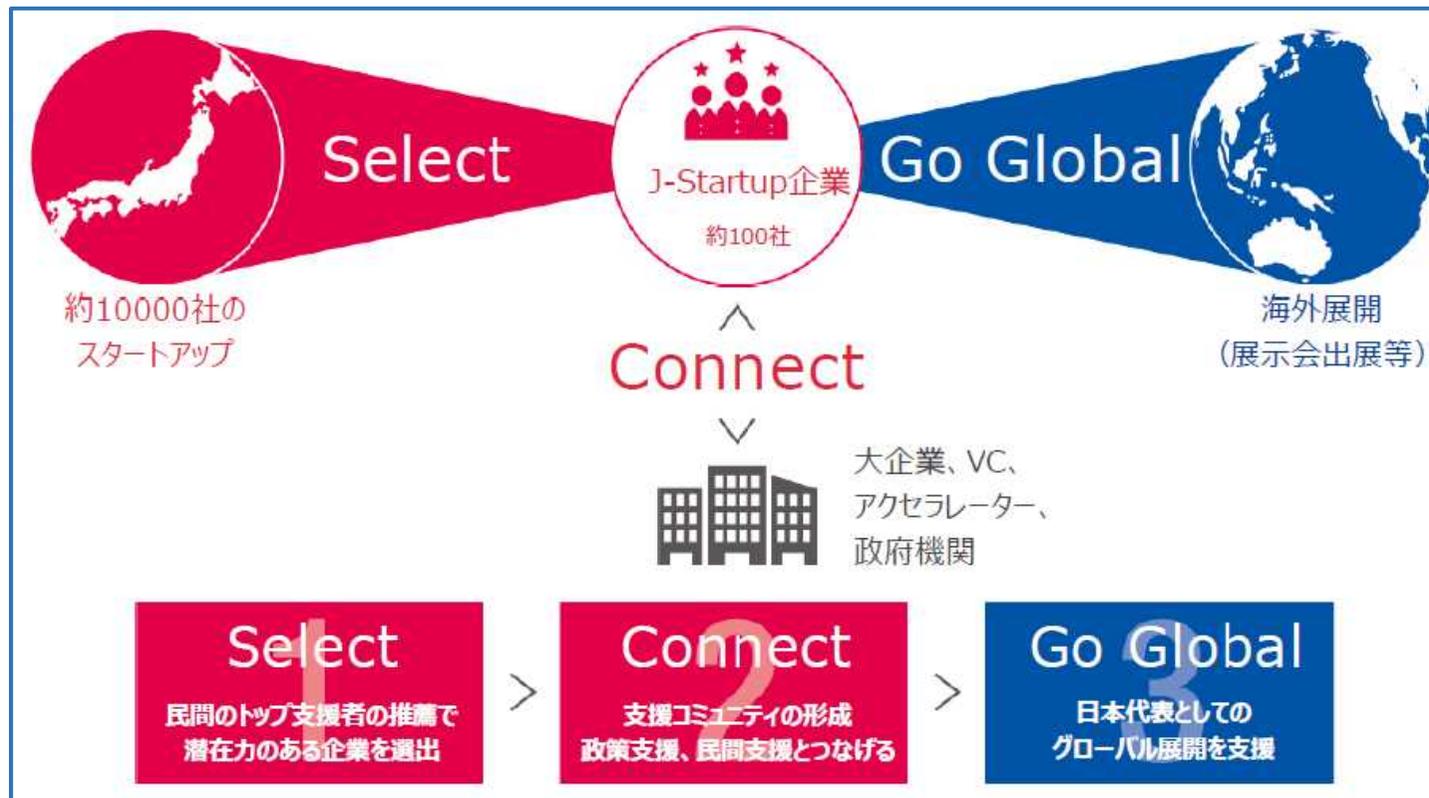
# J-Startup

企業価値又は時価総額が10億ドル以上となる未上場ベンチャー企業(ユニコーン)又は上場ベンチャー企業を、2023年までに20社創出する。

トップ層を引き上げグローバルで成長するスタートアップの創出を通じて

- ・ロールモデルの創出
- ・起業家マインドを社会全体で醸成
- ・日本のスタートアップエコシステムの更なる強化

を目指す。



# J-Startup企業 (92社) 1 / 2

92社中42社NEDO支援(●)

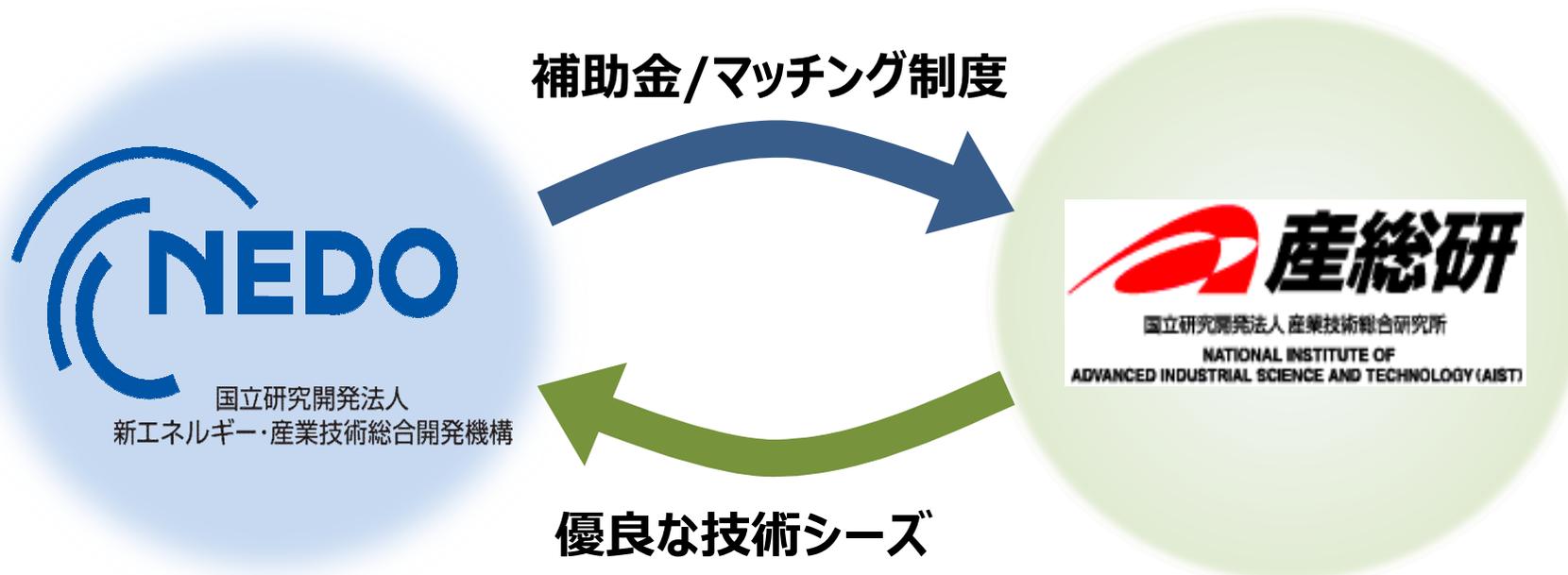
- ArchiTek株式会社
- 株式会社ispace
- AWAKENS, Inc.
- 株式会社アクセルスペース
- 株式会社アストロスケール
- 株式会社ABEJA
- 株式会社アラヤ
- AlpacaJapan株式会社
- Idein株式会社
- Inagora株式会社
- InstaVR株式会社
- 株式会社インフォステラ
- WHILL株式会社
- 株式会社エイシング
- エーアイシルク株式会社
- 株式会社エクサウィザーズ
- エディジーン株式会社
- エルピクセル株式会社
- エレファンテック株式会社
- 株式会社O: (オー)
- 株式会社お金のデザイン
- 株式会社Origami
- 株式会社オルツ
- 株式会社カウリス
- 株式会社キュア・アップ
- 株式会社QPS研究所
- 株式会社Kyulux
- Kyoto Robotics株式会社
- クオントムバイオシステムズ株式会社
- 株式会社クラウドワークス
- GROOVE X株式会社
- Global Mobility Service 株式会社
- 株式会社 Cogent Labs
- ココアモーターズ株式会社
- コネクテックジャパン株式会社
- CYBERDYNE株式会社
- 株式会社GRA
- 株式会社JTOWER
- 株式会社Studio Ousia
- Spiber株式会社
- スペースリンク株式会社
- 株式会社SmartHR
- 株式会社スマートドライブ
- 株式会社すららネット
- セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ株式会社
- 株式会社ZMP

## J-Startup企業 (92社) 2 / 2

- SORABITO株式会社
- 株式会社チャレナジー
- 株式会社tsumug
- テラモーターズ株式会社
- テレイグジスタンス株式会社
- 株式会社Trigence
- Semiconductor
- トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社
- 株式会社ナノエッグ
- 日本環境設計株式会社
- 株式会社PKSHA Technology
- 株式会社バイオーム
- 株式会社パネル
- 株式会社P・マインド
- ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
- 株式会社ビザスク
- VISITS Technologies 株式会社
- BizteX 株式会社
- 株式会社ビズリーチ
- 株式会社Finc
- 株式会社Photo electron Soul
- 株式会社Preferred Networks
- Fringe81株式会社
- 株式会社FLOSFIA

- ペプチドリーム株式会社
- Holoeyes株式会社
- マイクロ波化学株式会社
- 株式会社マネーフォワード
- MAMORIO株式会社
- 株式会社MUJIN
- 株式会社メガカリオン
- 株式会社mediVR
- 株式会社メルカリ
- 株式会社メルティンMMI
- 株式会社ユーグレナ
- 株式会社ユーザベース
- ライフイズテック株式会社
- ラクスル株式会社
- リーズンホワイ株式会社
- LeapMind株式会社
- 株式会社Liquid
- リバーフィールド株式会社
- 株式会社リプロセル
- 株式会社ルートレック・ネットワークス
- レキオ・パワー・テクノロジー株式会社
- レグセル株式会社
- WAmazing株式会社

**AIST発のシーズの社会実装をNEDOは強力に支援します。**



## マッチング:

NEDOピッチ

## 展示会:

イノベジャパン、ILS

## 支援事業:

NEP(SUI), STS, SCA,  
AI, 橋渡し

## 技術シーズ:

産総研技術移転ベンチャー

## マッチング:

産総研発ベンチャーTODAY

## 支援・連携:

設備、装置、施設提供  
技術コンサルティング

# NEDO-AIST相互のイベントによる事業者紹介



相互のネットワークの融合による社会実装に向けた加速

H29	<p><b><u>NEDOピッチ</u></b> Hmcomm(株) (6月、AI特集) ロボティック・バイオロジー・ インSTITUTE(株) (9月、AR/VR特集)</p>	<p><b><u>平成29年度産総研発ベンチャーTODAY</u></b> (株)Photo electron Soul (ものづくり/エレクトロニクス分野) (株)クァンタリオン (AI/IoT分野)</p>
H30	<p><b><u>イノベジャパン2018</u></b> (株)エアメンブレ (株) SteraVision リーグソリューションズ(株) (株)モッタイナイ・エナジー</p>	<p><b><u>平成30年度産総研発ベンチャーTODAY</u></b> ArchiTek(株) (AI/IoT分野) (株)マイオリッジ (ライフサイエンス分野)</p>

## 最近の産総研技術移転ベンチャーの採択例

- [\(株\) ナルクス](#) H27年度SUI 採択
- [\(株\) SteraVision](#) H30年度STS第1回 採択
- [Hmcomm \(株\)](#) AIシステム共同開発事業 採択

# J-Startup 研究開発型スタートアップ支援事業

平成31年度概算要求額 **29.0億円 (17.0億円)**

産業技術環境局技術振興・大学連携推進課  
03-3501-1778  
産業技術環境局大学連携推進室  
03-3501-0075

## 事業の内容

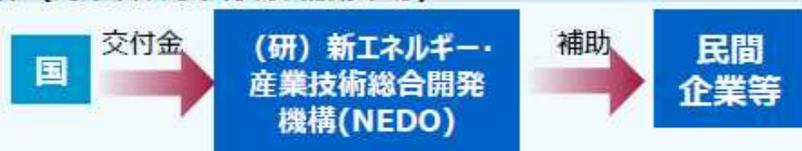
### 事業目的・概要

- Society5.0の実現に向け、イノベーションの担い手であるスタートアップ企業は重要な存在です。特に、研究開発型スタートアップは、スピード感を持った果敢な研究開発により技術的優位な立場を構築できるため、技術イノベーションの担い手として期待される存在で、その創出や成長のための環境整備が重要です。
- しかしながら、研究開発に要する期間の長さ、資金調達の難しさ、成功ノウハウ蓄積の少なさなど、研究開発型スタートアップを取り巻く環境は依然として厳しく、自律的・連続的に創出・成長が繰り返される「エコシステム」の構築には未だ至っていません。
- このため、本事業では、将来的にJ-startup(※)対象企業に選出されるような、急成長の可能性を秘めた研究開発型スタートアップに対し、その事業段階に応じた支援を関係者のコミットを得ながら行うことにより、エコシステムの構築を目指します。
- 具体的には、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)を通じ、成長性を秘めた研究開発型スタートアップに対して、支援人材、ベンチャーキャピタル、研究機関、事業会社等の協力を得ることを条件に、実用化開発等に係る費用等を支援します。

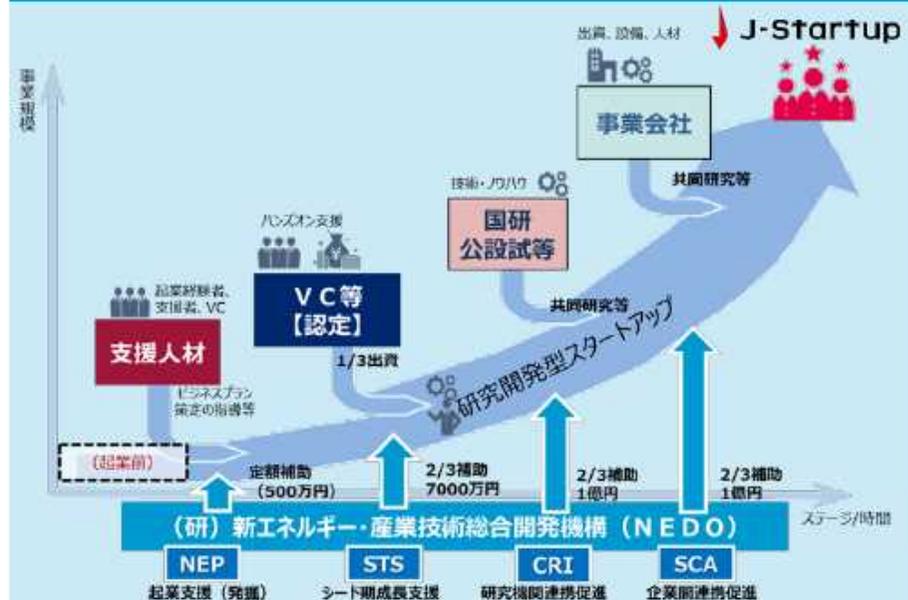
### 成果目標

- ①事業年度毎の支援終了1年以内に次のステージの資金調達に成功する割合が5割
- ②NEDOが本事業を開始する前と比較して、認定VCの研究開発型スタートアップに対する投資額が2倍

### 条件 (対象者、対象行為、補助率等)



## 事業イメージ



- ・ NEDOが、シード期の研究開発型スタートアップを支援するベンチャーキャピタルを公募し、認定する(認定VC)。
- ・ 認定VCから出資を受ける研究開発型スタートアップの中から、技術面及び事業面で先進的な者を選定の上、以下の支援を実施する。
  - 専門家、認定VCによる事業化のための助言
  - 実用化開発費、共同研究費等の補助
  - 上記支援を効果的に普及・活用する場の提供 等

※「J-Startup」とは、グローバルで活躍できるスタートアップ企業を官民により集中支援する取り組みです。

# ■ 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業



大学、研究機関、ベンチャーの起業家の育成支援プログラム

## Technology Commercialization Program (TCP)



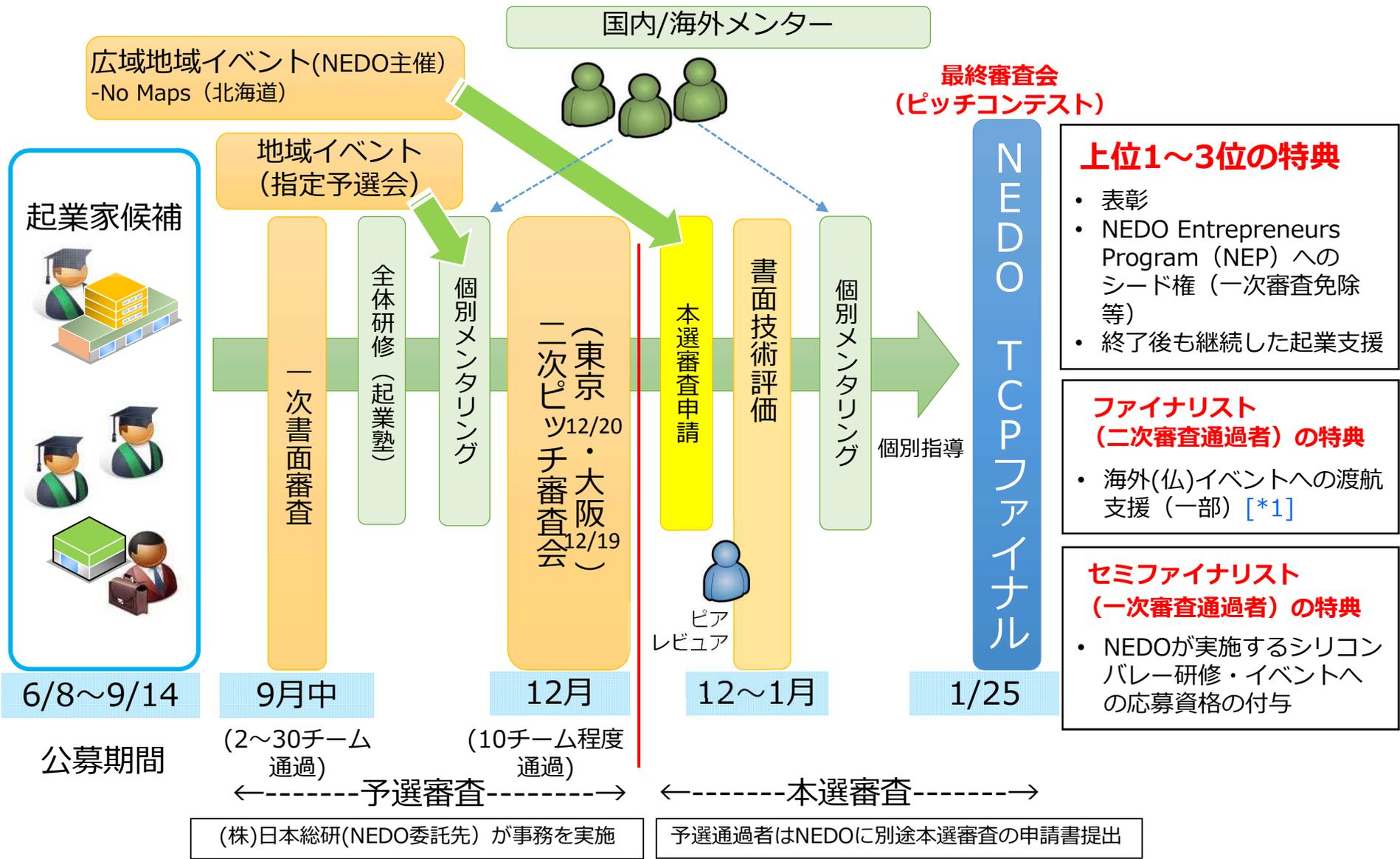
技術シーズの事業化やそのプロセスに関心を有する国内の大学・研究機関等に在籍する研究員、大学院生、学部生であって、将来起業することを視野に入れている方を対象に、ビジネスプラン作成のための研修と、ビジネスプラン発表の機会を提供します。

NEDO TCPは専用サイト <http://nedo-tcp.jp/> でご案内しています。

対象者	大学等の技術シーズを用いて起業を目指す研究者等※ ※公募開始時に起業していないこと	(企業・大学等の個人、研究者又は研究チーム)
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術シーズの事業化に関心を有する国内の大学・研究機関に在籍する研究員、大学院生、学部生であって、将来起業することを視野に入れている方</li> <li>○企業における研究や新規事業のスピナウトを考えている方、既にスピナウトした方</li> </ul>	
募集内容	環境・エネルギー、電子・情報通信、バイオ・ヘルスケア、機械システム、ロボット、材料・ナノテクノロジー等の「技術」を活用したビジネスプラン	
支援内容	国内外の専門家による助言および研修、活動費の直接的な支援はなし（旅費等の支援はあり）	
賞	最優秀賞（1件）、優秀賞（1～2件）及びファイナリスト賞（10件程度）を表彰	
事業期間	プログラムスケジュールに基づいて実施	
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）	

平成30年度      平成30年6月8日～9月14日

# NEDO TCP2018の流れ



[\*1] Hello Tomorrow GLOBAL SUMMIT (2019年3月パリ開催) 参加の渡航費をNEDOが負担。  
別途Hello Tomorrow GLOBAL CHALLENGEに応募の上、Top500に選出されたチーム (最大3チーム) が対象。  
<http://hellotomorrowjapan.org/> 【募集期間6/4-9/14】

# ■ 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業



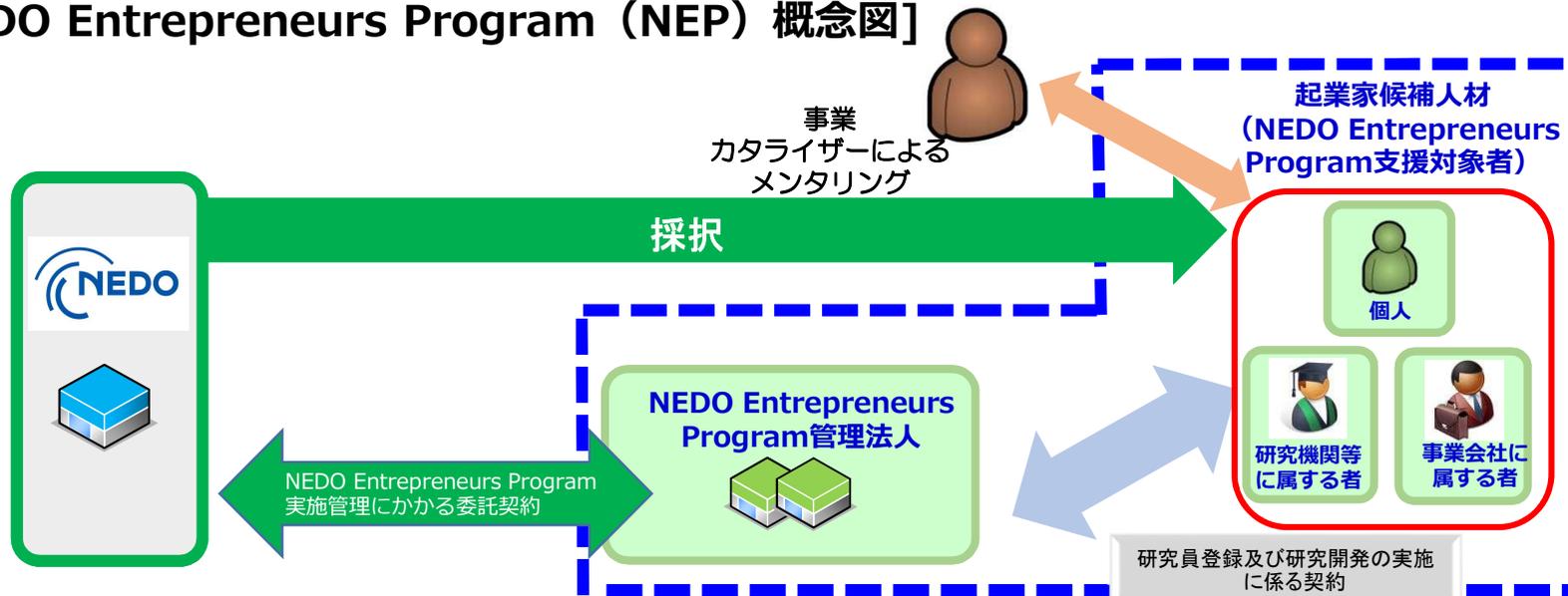
事業化支援人材の伴走支援による起業支援

## NEDO Entrepreneurs Program (NEP)

技術シーズを活用した事業構想を有する起業家候補人材（個人又は研究機関等や企業等に属する者）に対し、事業化支援人材（事業カタライザー）による指導・助言の機会提供など、研究開発型ベンチャーを立ち上げるための活動を支援します。

対象者	個人事業主、起業を志す企業の社員、起業を志す研究者
事業形態	委託（NEDO負担率：委託対象費用の100%）
委託金額	原則500万円以内（労務費は対象外）
事業期間	6ヶ月以内
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）

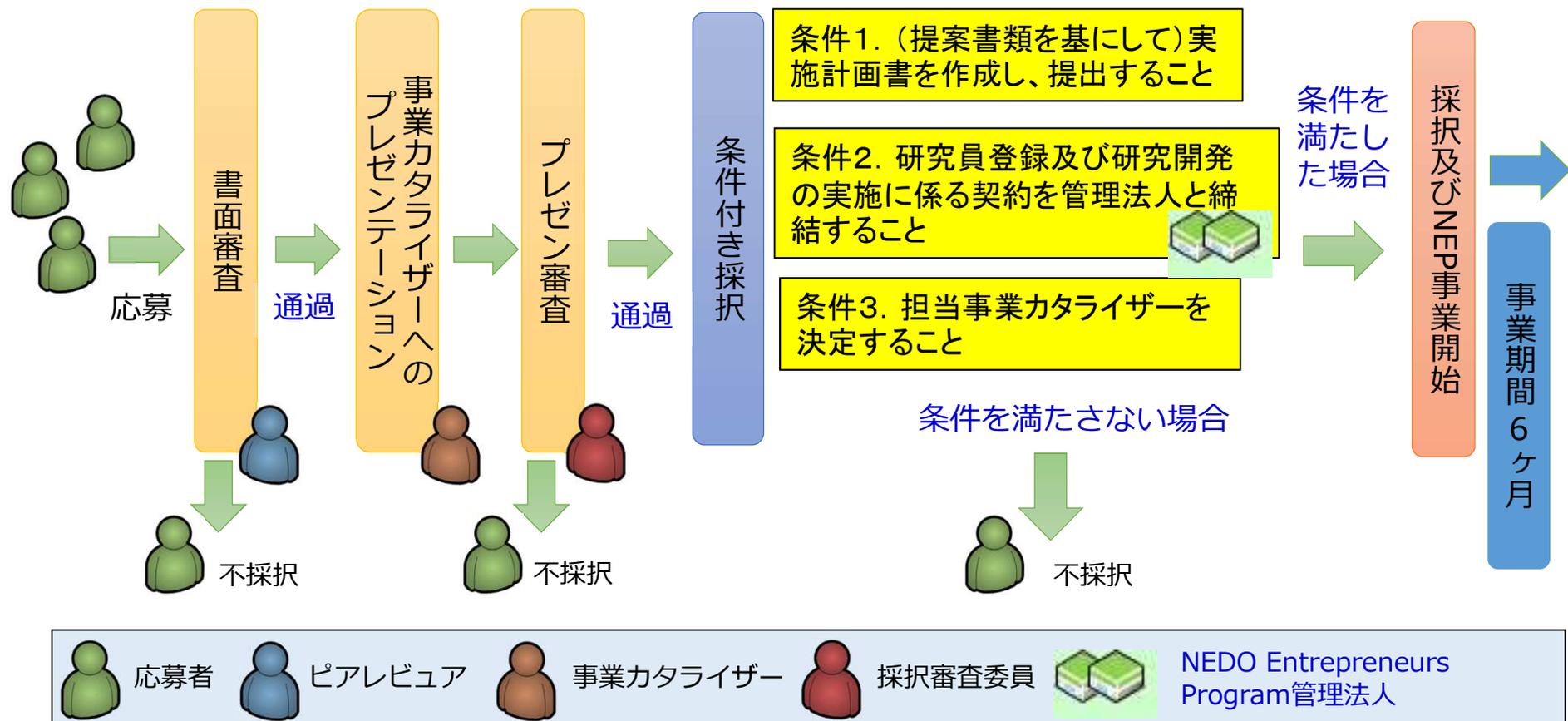
### [NEDO Entrepreneurs Program (NEP) 概念図]



平成30年度	予算：1.0億円	公募（4/24～5/24）採択決定20件/応募90件（4.5倍）
--------	----------	----------------------------------

## NEP公募～採択の流れ

書面審査、事業カタライザーとのプレマッチング(プレゼンテーション)後、外部専門家等によるプレゼンテーション審査を経て条件付き採択者を決定。採択決定後2か月以内を目安として、「実施計画書の提出」、「管理法人と研究員登録及び研究開発の実施に係る契約の締結」並びに「担当事業カタライザーの決定」をすることで本採択とする。



# ■ 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業

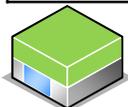


ベンチャーキャピタル等と連携してシード期のベンチャーを支援

## シード期の研究開発型ベンチャー(STS)への事業化支援事業

具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、NEDOが認定したベンチャーキャピタル等が出資を行うシード期の研究開発型ベンチャーに対して、事業化のための助成を行います。

対象者	シード期の研究開発型ベンチャー企業 (STS) (NEDOが認定したベンチャーキャピタル等 (認定VC) から助成対象費用の1/3以上の出資を受けること)
事業形態	助成 (NEDO負担率: 助成対象費用の2/3以下)
助成金額	プレSTS: 2,000万円以下、STS: 7,000万円以内 / 事業期間
事業期間	プレSTS: 1年以内 / STS: 1.5年以内
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (但し、原子力技術に係るものは除く)



### STS(Seed-stage Technology-based Startups)の 主な要件

- 日本登記された法人であること。  
※中小企業基本法等に定められている中小企業者に該当する法人で  
みなし大企業に該当しないこと。
- 特定の技術シーズを有し、その実用化開発と事業化を行うシード期の研究開発型ベンチャーであること。
- 認定VCから助成対象費用の1/3以上の出資を公募要領で定める期日以降に受けていること。又は、今後出資が予定されていること (出資の意思決定確認書等が必要)。
- 新市場、イノベーションを創出しうるものであること。



### 認定VC等の主な要件

- 業としてベンチャー企業への投資機能を有し、STSを支援するハンズオン能力を有するVC等。  
(チームによる申請も可。)
- 日本国又は外国政府、国立大学法人、地方自治体の出資が入っていない法人であること。
- 国内にSTS等を支援する拠点 (支店も可) を有し、常駐スタッフを配置していること (計画段階も可)。  
但し、常駐スタッフはSTSの支援実績、または支援能力を有すること。

<認定期間> 平成31年度まで

但しSTSの支援期間中は当該STSに対しての権利義務を継続。

#### 認定VC (平成30年11月現在 34社)

株式会社ゼロワンブスター  
株式会社ファストトラックイニシアティブ  
株式会社TNPスレッズオブライト  
SBIインベストメント株式会社  
ジェネラルパートナー株式会社  
鎌倉インベストメント株式会社  
株式会社MAKOTOキャピタル/一般社団法人MAKOTO  
株式会社みらい創造機構  
株式会社ABBALab  
株式会社広島ベンチャーキャピタル  
合同会社ユーグレナSMBCE日興リパネスキャピタル

Beyond Next Ventures株式会社  
Global Catalyst Partners Japan  
ハックベンチャーズ株式会社  
株式会社SARR TECH RANCH  
株式会社東京大学エッジキャピタル  
ウエルインベストメント株式会社/AZCA, Inc.  
Draper Nexus Venture Partners, LLC  
Expara Ventures .Ltd.  
Triple Ring Technologies, Inc./日本医療機器開発機構  
QBパートナーズ有限責任事業組合  
500Startups Japan

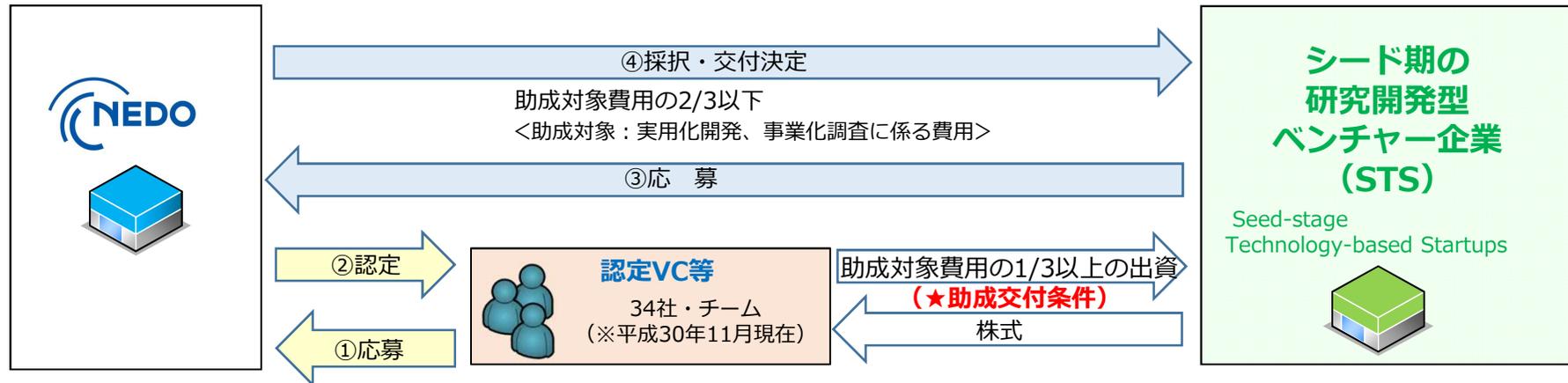
ニッセイ・キャピタル株式会社  
株式会社ジャフコ  
360ipジャパン株式会社  
Remiges Biopharma Fund GP, Inc  
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ  
D4V合同会社  
グローバル・ブレイン株式会社  
日本ベンチャーキャピタル株式会社  
インキュベイトファンド株式会社  
合同会社テックアクセルベンチャーズ  
みやこキャピタル株式会社  
MedVenture Partners株式会社

## 「研究開発型ベンチャーへの事業化支援事業（VC-STS事業）」予算額と公募情報

平成28年度 (平成27年度補正予算)	予算 : 13.9億円	第1回公募 (4/15~5/27) 交付決定4件/応募12件 (3倍) 第2回公募 (7/11~8/26) 交付決定9件/応募14件 (1.6倍)
平成29年度	予算 : 15.0億円	第1回公募 (4/3~5/31) 交付決定15件/応募26件 (1.6倍) 第2回公募 (7/19~8/21) 交付決定7件/応募12件 (1.7倍)
平成30年度	予算 : 8.0億円	第1回公募 (3/19~5/7) 交付決定9件/応募23件 (2.6倍) 第2回公募 (7/12~8/31) 採択決定9件/応募27件 (3.0倍) 第3回公募時期 : 2019年春頃

- 平成30年度の公募情報・公募要領・採択結果等の詳細は、以下でご確認いただけます。  
NEDOホームページ> 公募・調達> 公募情報→分野別情報一覧> ■分野横断的公募事業 平成30年度 分野横断的公募事業分野 公募一覧

### [VC-STS事業概念図]



#### 【参考】平成30年度第1回公募 交付決定先（9社）

株式会社ワンダーフューチャーコーポレーション	IoT社会を支えるダメージレス部品実装技術の開発
株式会社SteraVision	人の“眼”の動きを取り入れたソリッドステート型スキャナーの開発
株式会社ANSeeN	大面積X線フォトンカウンティングイメージャとその製造技術の開発
アイリス株式会社	咽頭画像を用いた深層学習によるインフルエンザ診断機器開発
ソシウム株式会社	シームレスな細胞内応答解析技術と評価システムの開発
リベロセラ株式会社	GPCR-Gタンパク質系を標的とした化合物評価方法の開発
グランドグリーン株式会社	異科接木技術を用いた汎用的ゲノム編集法の開発
株式会社マイオリッジ	ビッグデータ解析手法を用いた、細胞組織生産における分化誘導シグナル制御および環境因子の最適化システムの構築
株式会社アドバンスト・キー・テクノロジー研究所	次世代電子デバイス用単結晶事業の実用化開発

# ■ 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業

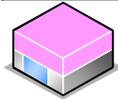


事業会社と共同研究等を行う研究開発型ベンチャーを支援

## 企業間連携スタートアップ（SCA）に対する事業化支援

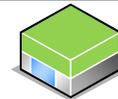
具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、事業会社と共同研究等を行う研究開発型ベンチャーに対して、事業化のための助成を行います。

対象者	企業間連携スタートアップ（SCA） 連携する事業会社と共同開発契約を締結すること
事業形態	助成（NEDO負担率：助成対象費用の2/3以下）
助成金額	原則7,000万円以内／事業期間
事業期間	約1.5年間
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）



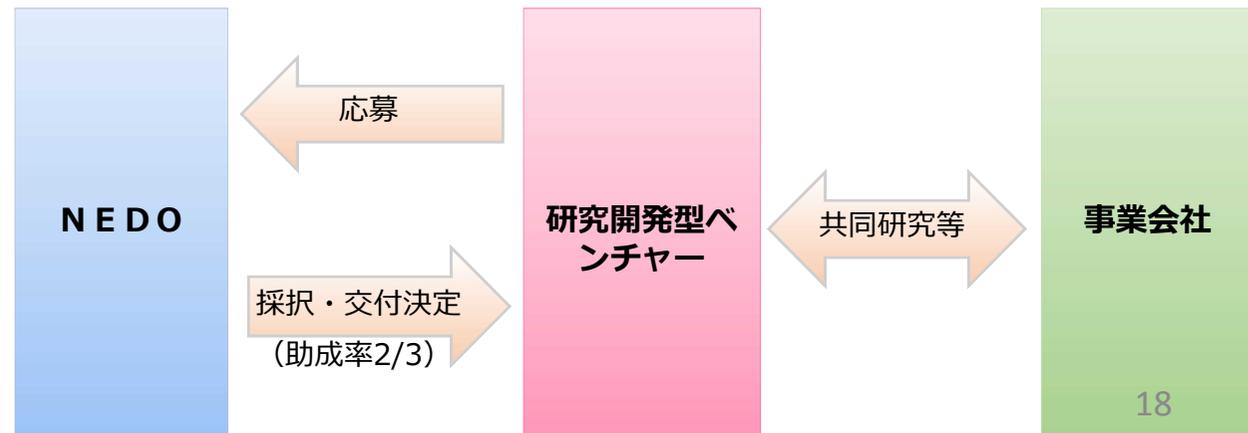
### SCA(Startups in Corporate Alliance)の 主な要件

- 具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、事業会社と共同研究契約等を公募要領で定める期日以降で締結していること。又は、今後締結が予定されていること（締結の意向を確認するための同意書等が必要）。
- 本邦法人であって、事業活動に係る主たる技術開発および意思決定のための拠点を日本国内に有すること。  
※本邦法人未設立及び拠点未設置の場合は、採択後1か月以内にそれぞれ設立及び設置すること。
- 中小企業基本法等に定められている中小企業者に該当する法人であって、みなし大企業に該当しないもの。
- 大企業の持分法適用会社ではないこと。
- 事業会社からの出資が50%未満で非連結対象であること。  
※事業会社の出資による取得株式には、事業会社の投資事業有限組合員としての所有に属する分を含む



### 共同研究等を行う事業会社の主な要件

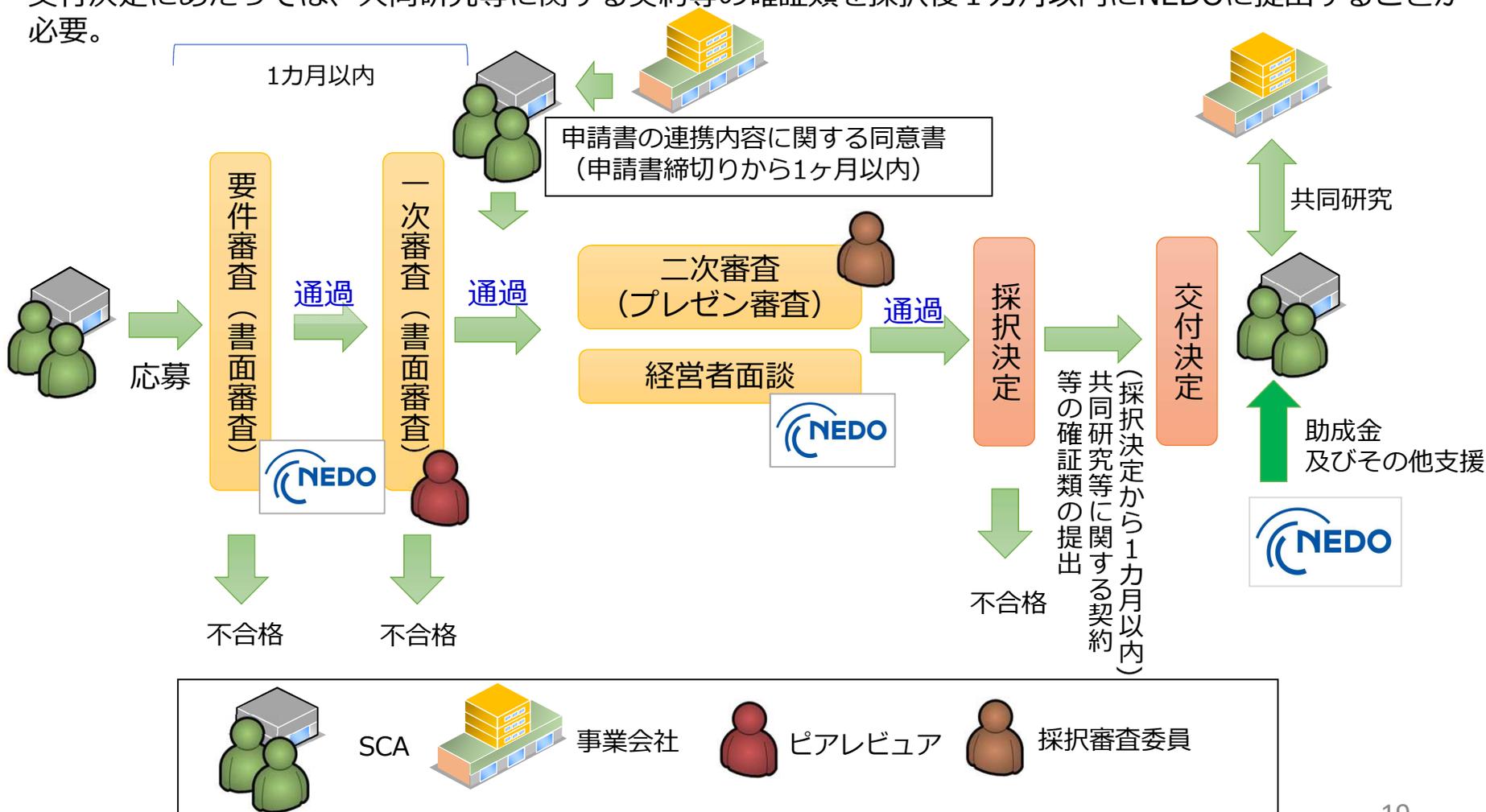
- 本邦法人であること(海外法人の場合は、採択日から1か月以内に日本法人を設立すること)。
- SCAに対する出資による持株比率が、50%未満かつSCAを連結対象としない等、実質上SCAを支配していないとみなせること。  
※なお、SCAへの出資による取得株式には、事業会社の投資事業有限組合員としての所有に属する分を含む。



平成28年度	予算：約6億円	公募（10/3～11/24） 交付決定12件/応募72件（6倍）
平成30年度	予算：約4億円	第1回公募（5/15～6/28） 交付決定6件/応募43件 第2回公募時期：10月18日～11月22日

## SCA公募～交付の流れ

- ・ 申請書を提出の上、申請書締切りから1カ月以内に事業会社から申請書の連携内容に関する同意書を取得しNEDOに提出。一次審査及び二次審査（プレゼン審査）・経営者面談を経て、採択・交付決定を行う。
- ・ 交付決定にあたっては、共同研究等に関する契約等の確証類を採択後1カ月以内にNEDOに提出することが必要。



# ■ 研究開発型ベンチャーの起業家支援事業



## 研究開発型ベンチャー支援の中核的な役割を担う、専門支援人材を輩出 高度専門産業支援人材育成プログラム (SSA)

広い知見と高い専門性を持ち、研究開発型ベンチャーの成長を伴走支援できる人材の育成を行う高度専門支援人材育成プログラム「NEDO Technology Startup Supporters Academy (SSA)」を実施します。

対象者	イノベティブな研究開発型ベンチャーの創出支援の現場をリードしていく、またはリードしていくであろう人材、もしくは、今後こうした支援キャリアを目指そうとする若手支援者候補など
対象者例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国大学の産学連携・知財本部などの関連教職員・URA、コーディネーター、TLO役職員、ポストドク等</li> <li>○イノベーション・モノづくり支援等を担う自治体部局や公的産業支援機関の担当職員、インキュベーションマネージャー、コーディネーター</li> <li>○民間企業にてオープンイノベーションや社内発ベンチャー創出に従事する担当で、高度専門性・キャリアを高めたい関係部局の担当者</li> <li>○VC等で、各地の研究機関や公的機関と連携し、シード段階から積極的に技術の目利きや掘り起こしを行い、研究開発型の専門性やキャリアを構築したいキャピタリスト</li> <li>○上記に準ずる職能の者あるいはベンチャー支援者を志す若手人材など</li> </ul>
目的	日本のベンチャー・エコシステムの構成員としての公益的視点、広い知見や高い専門性を持って先端の研究開発型ベンチャーの発掘から成長を伴走支援できる、現場の中核的役割を担う高度専門支援人材、上記のキャリアパスを志向するイノベーション支援人材を、産・学・官・公・民の横串で育成します。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>【1】テクノロジーベンチャー支援に必要な、基本的な知識やスキルを身に付ける講義群</li> <li>【2】伴走型支援者としてのマインドを培う場の提供</li> <li>【3】上記のOJT (NEDO事業者の支援現場) での実践的なアウトプット機会の提供など</li> </ul>
事業期間 (平成30年度)	2018年10月初旬～2019年2月末日までの予定 (約4か月間)

### 受講要件等

定員 : 15名～20名程度

参加費 : 無料

(ただし、参加に係る交通費等の実費は自己負担)

選考 : 書面審査により受講者を決定します。



### 後援機関等 (予定)

経済産業省 / (国研) 産業技術総合研究所 / (国研) 科学技術振興機構 / (国研) 理化学研究所  
 (国研) 情報通信研究機構 / (国研) 日本医療研究開発機構 / (国研) 宇宙航空研究開発機構  
 (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 / (国研) 物質・材料研究機構 / (国研) 海洋研究開発機構  
 (独) 日本貿易振興機構 / (独) 中小企業基盤整備機構 / (独) 情報処理推進機構  
 (一財) ベンチャーエンタープライズセンター / (一社) 日本ベンチャーキャピタル協会  
 オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会ほか

平成29年度	募集期間：8月21日～9月19日 OJT参加数25名/応募72名
平成30年度	募集期間：8月21日～9月20日 OJT参加数41名/応募85名

第一線で活躍するベンチャー企業やイノベーションの有識者による研究開発型ベンチャーの創出や支援について必要となる基本的な知識や方法論に関する講義、ワークショップによる支援課題や論点のディスカッション、そしてNEDOプログラムならではの研究開発型ベンチャーの“生”の支援現場を実践経験するOJT機会によりプログラムを実施します。

**受講者候補**  
 (大学、独法、公的支援機関、自治体、VC金融機関、民間企業等)



・プログラム修了後には研究開発型ベンチャーの支援的素養を備えた者としてNEDOが修了証を発行。

・NEDOは、これら取組を通じて、研究開発型ベンチャー支援の中核的役割を担う高度専門支援人材を育成・輩出することを目指す。

**公募開始**  
 8月21日～9月19日  
 提出締切

**書面審査**  
 (15名程度)  
 9月末

**前期集合研修**  
 (3日間)  
 10月初旬

**OJT期間**  
 (3か月)  
 10月上旬～12月中頃

**後期集合研修**  
 (2日間)  
 12月下旬～1月末日

# ■ 研究開発成果の実用化・事業化支援事業



中堅・中小・ベンチャー企業の実用化開発を支援

## 中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業

中小企業等が橋渡し研究機関から技術シーズの移転をうけてビジネスにつなげることや、保有する技術を橋渡し研究機関の能力を活用して迅速かつ着実に実用化することを通じて、自社の技術力向上や生産方法等の革新等を実現することを支援します。加えて、上述のような取組みを支援することにより、橋渡し研究機関が積極的にその機能強化に取り組むことを促進します。

対象者	<p>中堅・中小企業及び組合等</p> <p>① 中小企業基本法で定める「中小事業者」</p> <p>② 売上高1,000億円未満又は従業員が1,000人未満の企業「中堅企業」</p> <p>③ 「中小事業者」又は「中堅企業」としての組合等</p>
応募要件	共同研究先に「橋渡し研究機関」を含み、「橋渡し研究機関」が研究開発の重要な役割を担うこと。
事業形態	助成（NEDO負担率：助成対象費用の2/3）
助成金額	1億円以内（下限1,500万円）／事業期間
事業期間	1年半程度（参考：平成30年度／交付決定日から平成32年2月28日まで）
対象技術	新産業の振興のためのイノベーションの創出に資する新規性・革新性の高い実用化開発で経済産業省所管の鉱工業技術（但し、原子力技術に係るものは除く）であること。

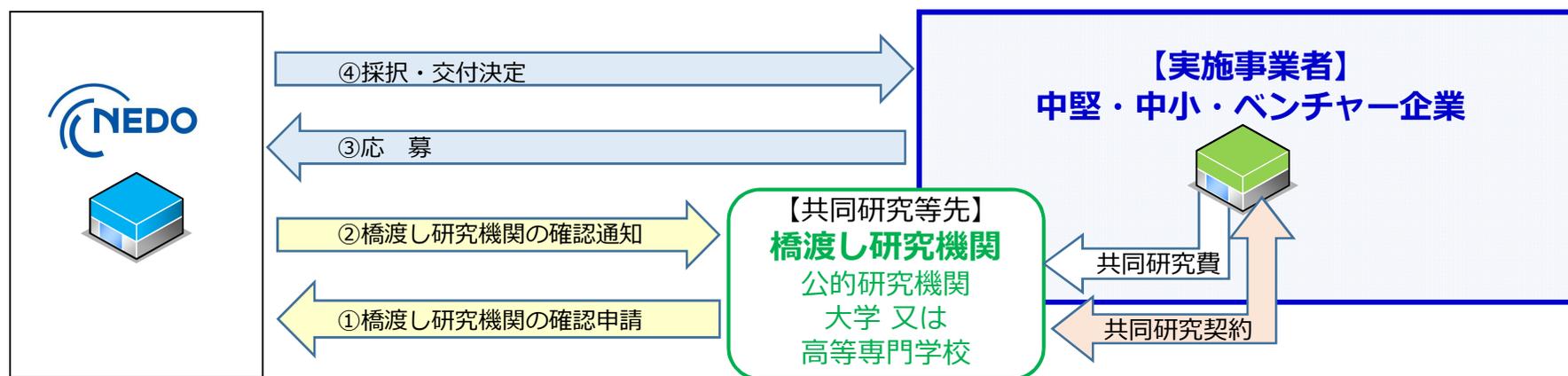
<p>橋渡し研究機関の要件</p>	<p>国の研究機関、独立行政法人、公設試験研究機関に該当する日本国内に立地する公的研究機関及び大学又は高等専門学校であって、以下の5つの仕組みを有する又は構築を計画中の機関</p> <p>① 橋渡し機能（先進的・革新的技術シーズを事業化につなぐ橋渡し機能）強化の仕組み</p> <p>② 民間企業からの資金受入の仕組み</p> <p>③ 産業界のニーズ把握とその組織内活動への反映の仕組み</p> <p>④ 技術シーズやノウハウを取り入れるための仕組み</p> <p>⑤ 知的財産権の活用促進の仕組み</p>
-------------------	--

## 「中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業」 予算額と公募情報

平成27年度 (平成26年度補正予算)	予算：14.2億円	公募（5/26～7/22）採択43件／応募162件（3.8倍）
平成28年度 (平成27年度補正予算)	予算：10.9億円	公募（3/22～5/10）採択23件／応募92件（4.0倍）
平成28年度第2回 (平成28年度補正予算)	予算：8.0億円	公募（10/3～12/1）採択17件／応募115件（6.8倍）
平成30年度 (平成30年度予算)	予算：3.0億円	公募（3/16～5/10）採択5件／応募46件（9.2倍）

- 平成30年度の公募情報・公募要領・採択結果等の詳細は、以下でご確認いただけます。  
NEDOホームページ>公募・調達>分野別情報一覧>平成30年度 分野横断的公募事業分野 公募一覧

## 「事業概念図」



「橋渡し研究機関」  
確認機関数：188機関（平成30年8月現在）

### 【内訳】

- ・独立行政法人：13機関
- ・公設試：54機関
- ・大学（国立・公立・私立）・高専：121機関

# ■ 研究開発成果の実用化・事業化支援事業



リアルデータ・実証フィールドを提供する事業会社と連携するAIベンチャーを支援

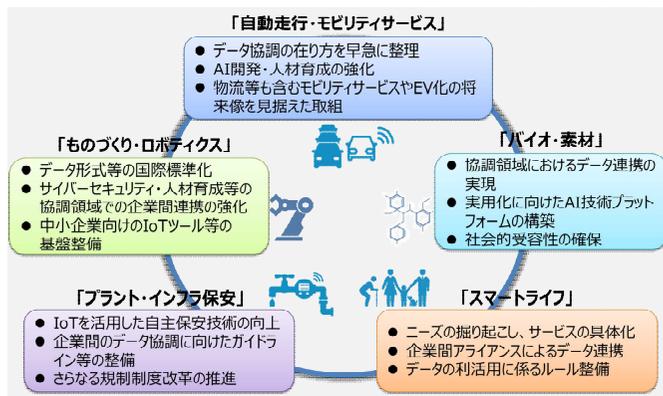
## AIシステム共同開発支援事業

「Connected Industries」重点取組5分野において、事業会社と連携して保有する人工知能技術を活用して、AIシステムの検証等を行う研究開発型ベンチャーに対して、事業化のための助成等の支援を行います。

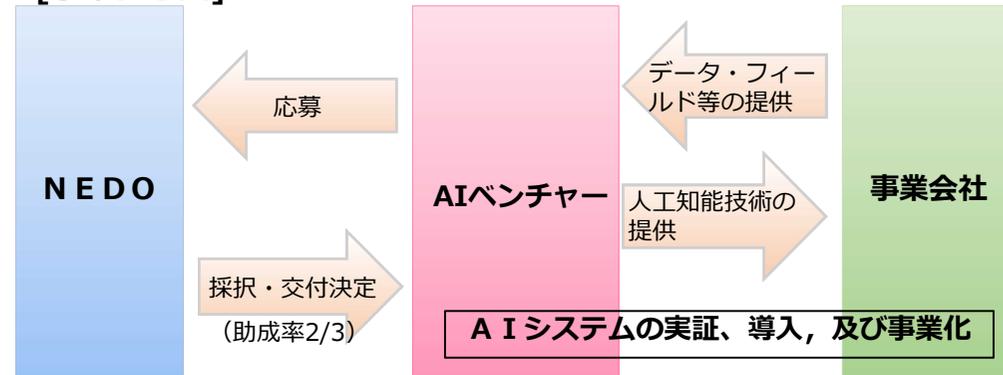
助成対象者※1	採択から1か月以内の時点で、国内法人の人工知能技術を有する研究開発型ベンチャーであること 例) ○独自のアルゴリズムを有するAIベンチャー ○オープンソースを活用するエンジニアリングを行うAIベンチャー
事業会社	採択から1か月以内の時点で、実証のためのデータ、フィールドを提供できる国内法人（民間企業、公 共法人、大学または病院等）であること。なお、フィールドは、国内外を問わない。
助成対象者と事業会社	・ 交付決定までに、共同開発契約を締結している必要がある。 ・ AIベンチャー代表1社が申請者であれば、AIベンチャーと事業会社は複数の組合せとしてよい。
事業形態	助成（NEDO負担率：2/3以下）
助成金額と事業期間	金額：原則2億円以内/件、期間：約8ヶ月間（平成30年7月～平成31年2月20日まで）
応募要件	・ AIシステム検証等を実施する研究開発分野は「Connected Industries」重点取組5分野であること。 ・ 人工知能技術を持つベンチャーとリアルデータ・フィールド等を持つ事業会社とが連携して開発する AIシステムによって、新規性を有する事業化を提案できること。 ・ 事業終了後も継続して、異分野・海外等を含めた事業展開が見込まれること。

※1) 汎用的なAIソフトウェア開発ではなく、AIを実フィールドで利活用するAIベンチャーを重点的に支援する。

### 「Connected Industries」重点取組5分野



### 【事業概念図】



出典：「Connected Industries」東京イニシアティブ2017、経済産業省（平成29年10月2日発表）

平成30年度	予算：24.0億円	公募（3/6～4/4）交付決定25件/応募67件（2.7倍）
--------	-----------	--------------------------------

# ■ 研究開発成果の実用化・事業化支援事業



## AIチップのアイデアを支援

## AIチップ開発加速のためのイノベーション推進事業

### ～AIチップに関するアイデア実用化に向けた開発～

AIチップに関するアイデアを実用化するための、論理設計・回路設計等の設計及びシミュレーター・エミュレーター等による有効性の評価・検証を支援します。また、大学や研究機関等を通じて、設計・評価・検証に用いる専用の設計ツール等、開発環境も提供します。

対象者	中小企業
事業形態	助成（NEDO負担率：助成対象費用の3分の2）
助成金額	5,000万円以内/年間（2年間で1.0億円以内）
事業期間	2年間
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・IoT社会の進展に伴い膨大な情報を効率的に処理するため、エッジ側での情報処理が重要視されており特にエッジ側でAIを効率的、省エネルギーに動作させるためのAIチップの開発が望まれています。</li><li>・日本には、AIの知見とともに新たなビジネスを創出させるイノベーションの種を持つ中小企業等が存在しているものの、実用化に向けた研究開発では高額な設計ツール等が必要であり、これがビジネス化に向けた高いハードルになっています。</li><li>・そこで本事業では、研究開発費を助成するとともに、大学や研究機関等を通じて、設計・評価・検証に用いる専用の設計ツール等、開発環境も提供し、エッジコンピューティング実現のためのAIチップの開発をサポートします。</li><li>・なお、本事業ではチップの試作は必須ではありませんが、試作した場合はその費用も助成可能金額の範囲内で支援します。</li></ul>

# ■ 研究開発成果の実用化・事業化支援事業



## 人工衛星等の宇宙用部品・コンポーネントの研究開発を支援 宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業

### (ベンチャー企業等による宇宙用部品・コンポーネント開発助成)

潜在的技術を有する中小・ベンチャー企業等の保有する技術シーズを活用し、人工衛星等の宇宙用部品・コンポーネントの開発に係る研究開発の一部を支援することで、宇宙機器産業の裾野を広げると共に、人工衛星等の高信頼性・低コスト化を実現し、宇宙機器産業の競争力強化を目指す支援を実施。

対象者	潜在的技術を有する中小・ベンチャー企業等※ ※中堅企業、組合等を含む（みなし大企業は除く）
事業形態	助成（NEDO負担率：助成対象費用の3分の2以内）
助成金額	1件1年間あたり2,000万円以内
事業期間	1件あたり3年以内
対象技術	人工衛星等の宇宙用部品・コンポーネント開発に係る技術

#### 想定される技術分野[例]

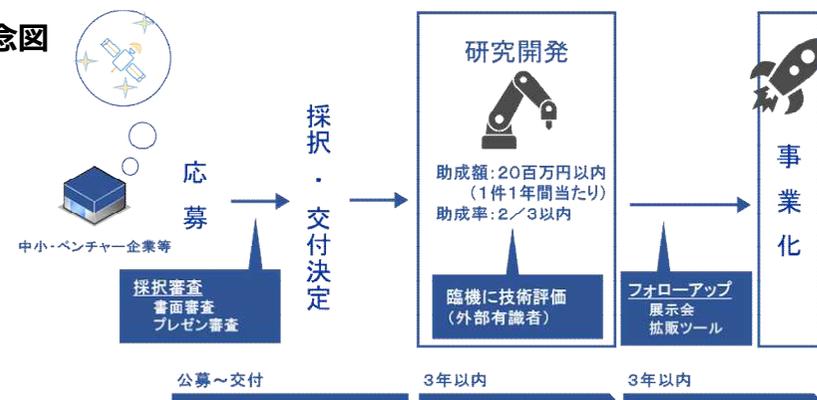
##### バス/ミッション系機器等

- \* 推進系（スラスタ等）
- \* 姿勢制御系（角度センサ等）
- \* 通信系（送受信機等）
- \* 電源/バッテリー系
- \* 構造・熱制御系
- \* 映像系（カメラ、レンズ等）
- \* その他、人工衛星等の宇宙用部品・コンポーネント全般



出典：東京大学

#### 事業概念図

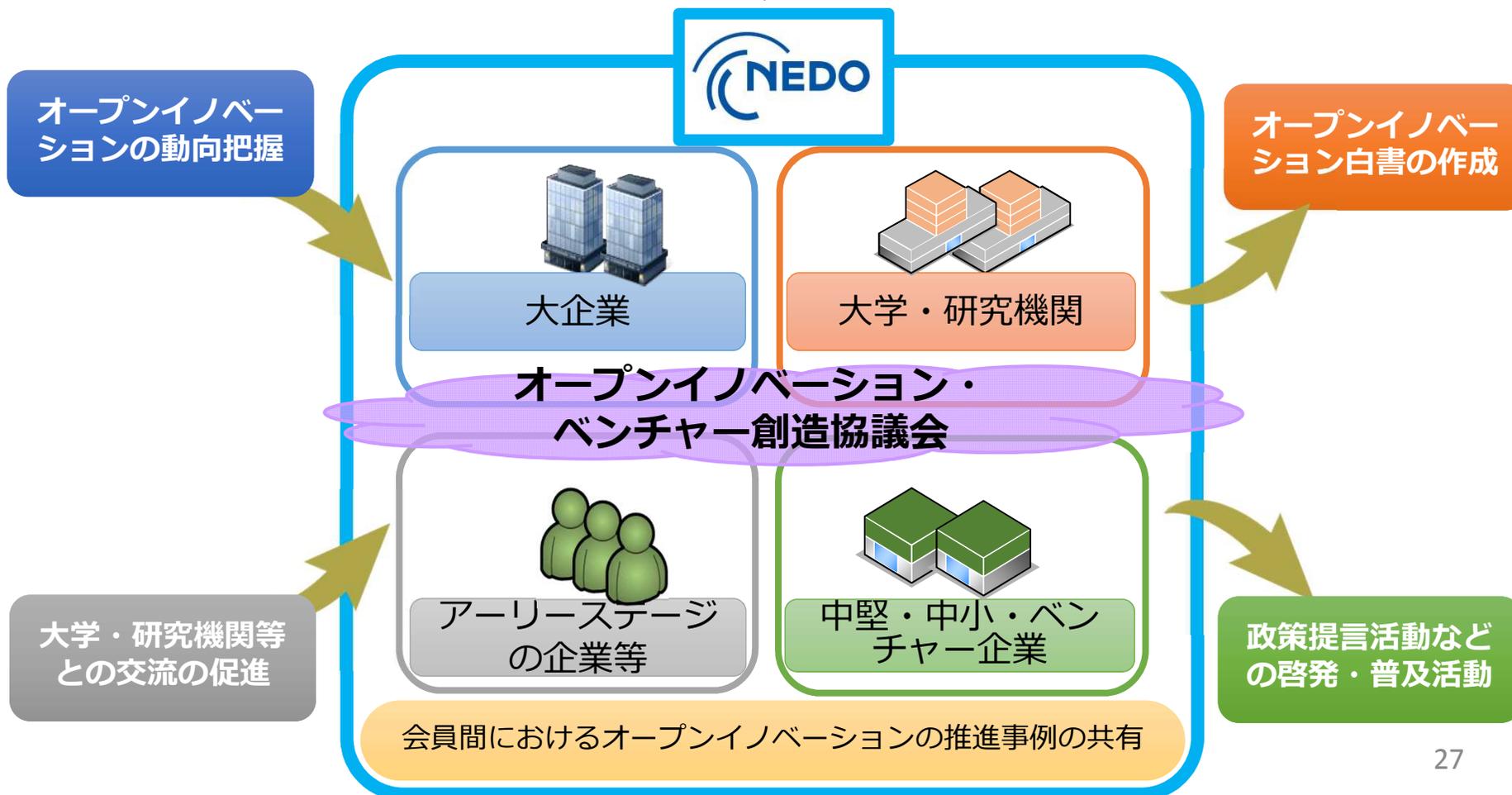


#### 「宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業（ベンチャー企業等による宇宙用部品・コンポーネント開発助成）」予算額と公募情報

平成30年度	予算：約1.0億円	公募（3/8～4/16）採択6件／応募11件（1.8倍）
--------	-----------	------------------------------

- ・ 民間事業者の「オープンイノベーション」の取組を推進するとともに、「ベンチャー宣言」を実現することにより、我が国産業のイノベーションの創出及び競争力の強化に寄与することを目的として設立。
- ・ NEDOイノベーション推進部が事務局を務め、事務局長はNEDO副理事長が担当する。

■設立:平成29年3月1日 ■会員数1,263 <内訳:企業会員833大学等の賛助会員430 (平成30年10月1日現在)>



## 主催イベント

- ◎ **JOICセミナー** 大規模なセミナーを、これまでに8回（他のイベントと連携を5回）実施済  
【次回】 イノベーションストリームKANSAI（2018/12/19）で実施予定
- ◎ **ワークショップ** 少人数でのワークショップを、これまでに12シリーズ（計20回）実施済  
【次回】 2018/11/28実施予定
- ◎ **NEDOピッチ** ベンチャー企業によるショートプレゼン会を原則毎月第4火曜日開催、これまでに27回実施済  
【次回】 第28回（2018/11/27）実施予定
- ◎ **NEDOドリームピッチ** イノベーション・ジャパン（8/30）、ILS（10/22～23）で実施済  
【次回】 イノベーションストリームKANSAI（2018/12/19）で実施予定



## オープンイノベーション白書 第二版の発行

我が国におけるオープンイノベーションの取組の現状を可視化し広く共有することを目的に、関連するデータを集約し、また、既に試行錯誤を繰り返しながらオープンイノベーションによって一定の成果をあげている企業の事例等をまとめたもの。平成30年6月末に第二版を発行した。

〈NEDO及びJOICのHPにてPDFファイルを掲載中〉

[https://www.joic.jp/joic\\_members/open\\_innovation\\_hakusyo](https://www.joic.jp/joic_members/open_innovation_hakusyo)

（書籍版は一般財団法人 経済産業調査会より発売中）



## NEDOチャンネル (YouTube)

第16回NEDOピッチから、NEDOチャンネル (YouTube) にて各登壇ベンチャーのプレゼンの様子を公開中。

〈YouTube “NEDO チャンネル”で検索〉

<https://www.youtube.com/channel/UCd4OTUB8A9PIIdNs-vxF5t8g>



# <参考>

◎ NEDOホームページ「研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー」ページから、当資料の最新版PDFをダウンロードいただけます。



**【各事業詳細資料】**  
各事業をクリックいただくと、  
詳細説明資料や公募時期を  
ご確認いただけます。

※本ページ下部の「各支援プログラムのご案内」に「事業内容」「公募情報（予告、公募、決定）」を集約しています。

**【当説明資料】**  
「ベンチャー・中小・中堅企業向け支援事業の紹介」  
「テーマ公募事業紹介一覧」  
をクリックいただくと、当説明資料をご覧いただけます。

NEDOトップページ右上の「研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援」をクリック。

- 「イマステリアにおける状況調査及び露出決定支援業務」に関する公募について(予告)
- 「研究開発型ベンチャー支援事業/企業間連携スタートアップに対する事業化支援」に関する公募について(予告)【公募予告】
- 「研究開発型ベンチャー支

イベント・公募情報の検索



ご静聴ありがとうございました。